

先日、こんな話を聞きました。  
 専業主婦だった青木千代さんは、七〇歳を前にして「何か世の中の役に立つ仕事をしたい」と、東京で「ホームインスティッド」のケアスタッフになりました。担当は脳卒中で寝たきりの方で、週3日朝から夜まで家族の方が不在の間のお世話でした。自分が病気で歩けなくなつたことがあつて、その時の経験を話したら「じゃあ、頑張れば私も歩けるようになるのね」とリハビリを始められ、数カ月で歩けるようになったときは、自分の

このように嬉しかったといいます。自分で治る力をつけるために、回復期にはお世話をし過ぎないようにと離れていたら、「さびしいから、そばにいてください」といわれ、肩をさすったりもしました。介護保険にかかわるサービスがよく話題にされますが、タスキンは三六五日二四時間対応で掃除洗濯、食事づくりから通院のつきそい、車椅子の介助、会話のお相手までしている保険適用外のサービス「ホームインスティッド」を全国で五〇店展開しています。

家族の方に様子を伝えるレポートを書き、訪問の前には話題を豊富にしようとニュースをメモするなど細かな準備もしていますが、青木さんは「他人から世話を受けているという重荷を感じさせないように、できるかぎり空気のような存在でありたい」と心がけています。世話する人とされる人の関係をこえ、互いが共に喜びを感じあえる仕事であるとも感じています。

ケアスタッフは年齢を重ね、様々な経験をしてきたことから生まれる心遣いが活かされる仕事でもあります。少しずつこのサービスを地域に増やしていきたいと思っています。

株式会社タスキン社長

伊東美幸

# 喜びのタネまき新聞

読者の幸せを心に願って作る



写真・市谷 健 「春がきた 春がきた どこにきた」





## ものぐさ人間でも すてきな庭ができる ガーデニングのススメ

ガーデニングも雑誌の美しいお庭も大好き。でも、不幸にしてあなたが「失敗した!」「また枯らした!」と自己嫌悪に陥る事が多くても、もう心配いりません。「だめガーデナー」の心を明るくし、間違いに気付かせてくれる先生が現れました。怠けることが大好きな「ものぐさガーデナー」のための手引き書をお書きになった斉藤吉一さんをご紹介します。

## 面倒くさがり屋で 楽をするのが好き

斉藤さんによると、庭の手入れをカンペキに出来る人は100人中1人くらいで、残りの99人は「楽ができないかなあ」と思っている人たち。自分自身も「面倒くさがり屋で、楽をするのが大好きな」ものぐさガーデナー。

そんな斉藤さんが提案するのは、怠けてもきれいな、ほっといても心配ないお庭です。楽ができる簡単な極意は「がんばらない事」。

人は自分にはないものを手に入れようとすると、メチャメチャがんばらねばなりません。今流行のなんとか風ガーデンにあこがれて庭を造っても、その後が続かない。力仕事はできない、草花の知識もない、土いじりもあまりした事ない、そういう人にとっては、がんばることはむしろストレス。気合いの入ったガーデニングは誰か他の人にまかせ、気まぐれな猫のように、自分勝手に楽しむガーデニングをオススメしています。

## ものぐさ流、5つの掟

多くの庭を見てきた斉藤さんが思うことは、「今までの習慣は変わららない」という法則。

最初のがんばりはだんだん元にもどり、1カ月もすれば怠けることが大好きなものぐさ人間にリセット。でもせっかくなのでお庭なら、長くつきあって欲しいと考えました。

また「面倒くさい」という気持ちがある思いのほか高い壁であること、その壁を「乗り越える」よりは「よけて通る」方法を考える方が有効だという事に

気付きもしました。そこで編み出したのが、楽しんで成功する掟。

- ① したくない事をハッキリ決める
- ② 土を少なくする
- ③ 「丈夫で長持ち」を植える
- ④ 間違っても枯れない植物を植える
- ⑤ 「やる」と「みる」が2対8

この5つの掟を核に、2002年斉藤さんは小冊子を400冊自費出版。友人やお客さまに配って評判になった事がきっかけで取材を受け、本も出版するようになりました。

## 緑が人を癒す

斉藤さんは元プログラマー。徹夜続きの不健康な毎日の中で、体を動かす仕事にあこがれました。「緑が相手」というシンプルな理由から25歳で植木職人に転身。剪定や庭造り、大きな造園工事など様々な経験を経て98年に独立、造園事務所「庭の音」をつくりました。

目指しているのは、流行にとらわれず居心地のよいすてきな庭。住む人と建物の調和がとれ、庭がその人らしさや暮らし方の表現であること。緑は人を癒してくれます。

以前、造園の師匠が「自然は自らの力で生きようとする。そこから学べ」と言いました。元の仕事も同じ、でも異なると思いました。

コンピューターは間違わない。プログ



**斉藤吉一さん**  
1969年生まれ。東京都調布市在住。もとコンピュータープログラマーが造園家に転身、本も出すというマルチな活躍ぶり。「手入れが簡単で、日本の風土にあった庭」を提案しています。



もともとはこの自費出版の小冊子がすべての始まりでした。



「ものぐさガーデニングのススメ」山海堂。出版以来ガーデニング関係ではベスト1。てことは、やっぱりみんな「ものぐさ」なね。情報満載! はやく全部知りたい短気な人は、喜びのタネまき新聞のシリーズを待たずに買って読んでね。

「庭の音」連絡先は7ページ



GOROthine  
FASHION  
GRAND PRIX



サンバ、やっていると！  
埼玉県鶴ヶ島市 大町じゅり

「いい感じのあなた、  
写真を送ってください。」



デビューはどっち、歌か新体操  
愛知県岡崎市 戸松真紀

ステキなわたしやマイペットが撮れたときは「見て見て！」がやりたい。喜びのタネまき新聞は部数600万だし、載ったら田舎のおじいちゃんも見てくれるかも。1年に1回位は、応募写真でみんな大集合の表紙も作りたい。ケータイからも送ってね (詳細は7ページ)

## 露出度600万デビュー!! マイファッション募集。



### タケノコのかき揚げ

タケノコの美味しい季節到来。タケノコご飯や煮つけは春の定番メニューですが、同じタケノコを使った料理でも、お出かけの時はお父さんが「おっ!!」と驚く新兵器で勝負をかけよう。「ちよっと遅くなります」のメモを横目にお父さんは「ご満悦。」

タケノコを一本茹でた時は穂先と根の間の、歯ごたえがしゃきしゃきした部分を使います。3cm位の長さにせん切りにし、干し桜海老と三ツ葉適量を混ぜ天ぷらの衣に入れて揚げるだけ。レモンと塩を添えて食す。桜海老の赤と三ツ葉の緑が見た目にもきれいでグツッと食欲をそそります。残ったかき揚げは、次の日のかき揚げ丼にもなるお役立ちアイテム。

### イタリヤ風焼きタケノコ

タケノコの水煮適量を形よく切り焼き網にのせ、

どちらかお好みどうぞ。

### 何にでも合うザーサイ飯

しょう油大さじ2、酒、みりん各大さじ1のタレに油揚げ2枚をつけてグリルでパリッと焼き、あら熱がとれたら細切りにする。ザーサイ適量はサッと水洗いし水分をふきとったら粗みじん切りにする。温かいご飯に油揚げ、ザーサイ、煎りごまを入れサクッと混ぜ合わせる。味をみて足りないようなら塩少々を加える。最後に三ツ葉をちらして出来上がり。油揚げとザーサイの旨みのご飯にいきなり、やみつき的美味しさ。

私が外出する日の  
お父さんの



青木美代子  
お料理研究家

## 夜のおべんとろろ

## 目先が変わるとこんなにステキ 「タケノコのおかず」



ラムする自分が間違う。自然は間違わない。間違うのは人間……。森の木は台風で折れても芽吹き、傷も治していく。

穏やかになる。そう話してくれた斉藤さん。その極意、アイデア、楽しくユーモアあふれる人生の書を、これからお届けしていきます。次回は5つの掟から。ご期待ください。

緑を見ている  
だけで心が



### 春の寄せ植え スカボロフェア

サイモン&ガーファンクルのこの曲を聞いたのは中学生の頃です。歌詞の「パセリ、セージ、ローズマリー、アンド、タイム」の意味が、その時はまったく分かりませんでした。しかし、今ではハーブ中心の寄せ植えを作る時はついいついスカボロフェアを口ずさんでしまいます。寄せ植えは中心に大きめのローズマリーを植え、シンボルツリーに、あとは周りに配っていきます。それぞれみな丈夫なハーブです。



ひとつ前の号でご紹介した沖繩のおばあたちの人生。彼女たちが学ぶ「珊瑚舎スコール」ってどんな学校？ 中学、高校、専門部、そして夜間。「学ぶことは快樂」という言葉にひかれて那覇市の学校をお訪ねしました。

## 学ぶ場は自分を創る場

生徒たちが「こんにちは」と挨拶する。外の人には警戒心や羞じらいを示すが、先生にはタメ口もきく。「ホッシー！」と珊瑚舎スコール代表の星野人史さんと呼ぶ。

先生の椅子に腰掛けてみたりして満足げだが、「ホッシー」は世間一般常識から言うと、校長先生なのである。「学校は自分を創る手助けをする場」と語る星野先生は56歳。若々しく情熱的で、時に大きな目をギロリとむくと、こちらの中まで見透かされそうな気もするが、子供っぽい光がちらりといったずらっぽく踊ったりする。

01年4月に開校した珊瑚舎スコールは、文部科学省が言うところの「学校」ではない。スコールはギリシヤ語で暇や余暇のこと、スクールは語源だとか。原初の学校を創るのだという気概が伝わってくる。

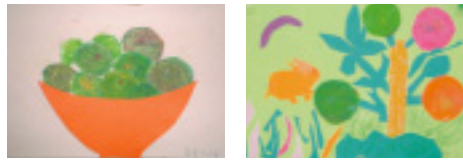
中学部は不登校などのサポート、高等部は通信制高校の学習支援、夜間中学は義務教育の機会を逸した人のため。沖繩とアジア研究の専門部もあり、14歳から74歳まで約50人が学ぶ。年齢で生徒と先生の区別はできない。

控えめなスタッフと思ったマッキーは、大阪から来た専門部1年生で



## 一人一人に花が咲く

クレヨンなんて恐れ多くて触ったことがなかったおばあ絵。堂々としている。



### 「ハナハナハナ」 あなたの花を咲かせなさい

授業では寝そべっている生徒もいるし、飲み物を飲んでもよい。よいと許可されてゐるのではない。イヤなら先生が「やめてくれ」と言えばいい。気まずい空気になっても対話は他人との交流だ。規則が交流をシャットアウトするのだ……。

1クラス15名以上にはしない珊瑚舎は、少人数だけにごまかしのきかない辛さもある。人と衝突もする中で「対話がだいじ」という意味が心底わかるのだろう。



ホッシーこと星野人史先生。エントモこと遠藤知子先生。文章講座を二人で受け持ち、夜間中学のおばあ聞き書きをしたのはエントモ。

伺った日は「とうんじーあしび」冬至の忘年会で一年の締めくくりのお祭りだった。在校生、卒業生、父母、講師の先生や支援者が集まり、一人一品ずつ食べ物を持ち寄る。生徒たちはカボチャを揚げ、飾り付けをし、アトラクションを練習する。全員が渦を巻くように忙しく動いていて、机なども隅に押しつけられていて、だから雑然と見える。

その中で廊下に貼られていた英語のオリジナルストーリー

53歳の男性。伺った日の学校行事では星野先生が、「お祭りの時は生徒に負けずにやらないと！ソッソッするから」と張り切っていたりする。

ここでは子どもが大人のようで、大人が時に子どものようなようで、みんなキリキリときつい目をして、輝いている。「ゆとり教育」の是非じゃなくて真剣勝負。先生も生徒も、生ぬるい所のない目をしていて。

## 対話がだいじ

星野先生は東京の日本橋生まれ。以前は1300人の大規模校の校長だった。ずっと教師の道を歩んできたが「自由自主自立、ゆとり教育」を掲げながら、現実には「規則、制度、指導」で生徒も教師も縛られる毎日。全体主義的な傾向を嫌って退職した。

沖繩は前の学校にいる時、修学旅行の引率で来た。生徒が自主研究で「反戦地主に話を聞く」企画を出し、段取りを決め、連絡も自分たちでして走り回った。よくやると嬉しかった。

ところが紹介の労をとってくれた人が東京で生徒たちに会い「ああいう生徒さんでは」と言ってきた。今どきの子は髪を染めピアスをし、格好がイカれている。「この話はなかったこと」というのだった。

さて沖繩旅行の最終日。当の地主さんがホテルに訪ねて来た。那覇から2時間かけ、サーターアンダギーを持って、来てくれた。

「この企画を立ててくれた高校生にお礼が言いたい。紹介者も私を心配したからこそで、両方ありがたく感謝している。今日は私たちの考えを伝えて、理解してもらいたいから来た」

沖繩は「他者に戸を立てない文化」だ、星野先生は強く思った。

だからというのではないが珊瑚舎の規則は「他人に無関心ではないけない」ということ他に、ほとんどない。

# 納得のいく自分になりたいから学ぶ

人には高さが必要で  
沖繩の空と海の広がり……



起こさないでください。  
気持ち良さそうだから。

自分の場だ。大事な仲間だ。だから大切に。



「ハナハナハナ」と言うんです。この二人に花を咲かせましょうということなんです。

1. 高校生と思えない位うまい。それからホッシーが撮った写真がたくさん。授業中寝ていると嬉しそうに飛んできて撮る「寝た子」の写真。絵や陶芸、畑仕事、踊り。たぶん「学ぶ」のは生活全体で学ぶのだ。それに遠足で行った沖繩の海の美しさ。「沖繩っていいですよ。人の力、場の力かな」人はそれぞれ花を持っていて、花を咲かせようと思っている。だから結婚式の乾杯の時は



一人ではできないものがある。みんなはじけてるさあ。(八重山舞踊)

お祭りの夜はふけて最高潮に達し、全員で踊る沖繩のカチャシーが始まった。10代から70代まで、100人ほどが、床が抜けるかと思うほどエネルギーを解放させて飛び跳ねる。踊りの輪に加わるとつい笑えてきた。人つていいな、珊瑚舎っていいな。ハナハナハナ！

珊瑚舎「コーレ」の連絡先は7ページ





## 手帳

静岡市 大竹まり子

「私は真つ赤なりんです。お国は寒い北の国。父は手帳に予定を書きこみつつ、いつも口笛を吹いていた。きまつて機嫌が良かった。」

几帳面に予定を立て、勤め人の時も退職後も、気付いた事まできれいな字で記入していた。日記より過去の事柄が鮮明に分かるし、多分、記憶力の低下を防ぐためもあったのだろう。

ある日、父は心臓の不調を訴え一週間の予定で検査入院した。退院後の予定はもちろんピシッリ記入済み。だが、補足書きをしつつ口笛を吹くことは叶わず、三日後に亡くなった。

そして私。勤務先の検診で引っかけた。心電図に異常がみつきり検査のため入院。いつも忙しそうにしていた父と同じで、お昼まで仕事、午後に入院。明日という日、父に言った。

「お父さん、お酒の相手はそのうちするよ。日本酒じゃなくてワインだけだね。まだお迎えはいいよ。お母さんも頑張ってるし。私が退院して仕事に付けるように応援して。約束してね」

——静岡はもうすっかり春。元気がなりましたか？



## 小さな棒きれ

愛知県瀬戸市 谷桂子

四歳だった息子を連れて公園へ。同じ年位の男の子とそのお兄ちゃんもやってきて、一緒に遊び、そのうち小さな棒きれを見つけた弟のほうと息子が取り合いを始めました。

さあ、どうしたものかと思守っていた時、お兄ちゃんが来て「かしてごらん」と棒きれを持ち二つにポキンと折って「これで両方あるでしょ」と渡しました。

なんてスマートなこと。なんてやさしいこと！失礼ですが身なりが少し粗雑で、そのスマートさとのギャップがあっただけに、私はすぐく胸を打たれました。思いやりを子供から教わった忘れられない出来事。もう十年以上も前のことです。

——「お母さん、お母さん、お母さん」



## 木イチゴ

鹿児島県高山町 日高幹子

甘いものは手に入らない戦時下。崖を見ると木イチゴが！ 日に日につややかに色づく様子が私と妹はただ眺めているばかりでしたが、

「ああそうだ、お母さんに取ってもらおう」

お願いしたけれど母も手が届かず、蚕用のハシゴに登ることになりました。

一段また一段、イチゴに手が届きそうになった一瞬、母が足をかけていた桁がはずれました。ころがるように落ちてくる母。下から見上げていた私も妹も小さな手を広げて夢中で受け止めようとしていたらしく、その後、母がよく、

「あんなモミジみたいな手で、お母さんをどうして受け止めることができようか」と近所の人とお茶を飲みながら、涙を流して笑っていました。

そんな母も明治、大正、昭和、平成と激動の中を生き抜き、今は九十の坂を越え、ほんとに遠い昔の思い出となってしまいました。

——あの日の母はいまでもちろく温かく…。



## 宮城の春

神奈川県大和市 嶋之浦トシ子

娘は我が子を一度も抱くことなく、出産直後に亡くなりました。その子も今年は中学生です。

私達は毎年、娘の墓参りを兼ねて孫の運動会を見に宮城まで行きます。涙を流しながら東北道を走ったこともありましたが、十二年の歳月をへて、若葉の美しさも目に入るようになり、悲しみが孫に会える喜びに変わってきました。

昨年はまだ肌寒い朝、入場行進が始まりました。校旗を掲げ先頭に立つ姿が孫に似ています。旗手のことは聞いていませんでしたが、やはり孫でした。胸をはって堂々と行進する孫の晴れ姿を娘に一目でも見せてあげたいと思いました。涙もろい私はもう涙が止まりません。主人も泣いています。

大事に育ててくれた先方の家族の方々に感謝します。がんばれー優太。思い出をありがとう。

——若葉もえぬ。

## 花粉、今年はずごい!

今年は花粉の当たり年。飛散量も例年の20～30倍とかで、予防対策がさげられてきました。今飛んでいるのはスギ、ハンノキ、ヤシタブシ、ヒノキで、これから多くなるのはシラカンバとイネ科の植物。地域により飛散時期にズレがあり、同じスギでも北と南では違い、九州ではすでに1月、関東は2月、東北は3月から飛散します。都会では10人に1人、要注意です。

## 花粉は家に入れない

不幸にして現在ぐずぐずハクションの真っ最中の方に、今からでも出来る防止策を。マスクはもはや常識アイテム。花粉を屋内に入れないために、洗濯物を干したら花粉をはき落としてから取り込む、布団は干さない、コートは玄関の外ではらってから入るなどなど、生活の知恵も色々。

## 静電気防止がポイント

また、最近では花粉が衣服に付着する原因は静電気によるもので、静電気付着防止処理をすると、ツルツルの生地だと98%くらいが着いても落ちてしまうことが分かりました。そのためのスプレーや柔軟仕上げ剤も出ているので賢く使いましょう。なおダスキンのマットは、オーダーメイドタイプも、ドアノブからぴりっとくる静電気を抑えてくれます。デザインが豊富でいろいろ選べるのもうれしいですね。

### ホームページでも

「喜びのタネまき新聞」がご覧いただけるようになりました。ホームページのアドレスは  
<http://www.duskin.co.jp>

ハアー。おいしくて、ため息が出る。



神奈川県茅ヶ崎市 藤原顕照

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。

どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名、お客さま係名をお忘れなく。

紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先。

〒108-0072 東京都港区白金2-6-8

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室

電話 03(5488)1372

e-mail:koho2@mail.duskin.co.jp

●2ページの斉藤吉一さんの連絡先「庭の音」は

FAX:0424-89-9488 e-mail:garden@kd5.so-net.ne.jp

ホームページのアドレスは www.monogusa.net

●4～5ページの「珊瑚舎スコーレ」事務局の連絡先は

〒900-0022 沖縄県那覇市樋川1-28-1 知念ビル3F

電話:098-836-9011

ホームページのアドレスは www.sangosya.com

あなたのお便りや写真をお寄せください



## ダイヤモンドの指輪

新潟県新発田市 高山相子

幼稚園の娘がお祭りから息を弾ませて帰り、「お母さんにダイヤモンドの指輪買ってきたよ」僅かなお小遣いで求めたオレンジ色の玩具の指輪。瀬戸物だったが、当時我が家にはダイヤモンドなど存在しなかったため、娘はオモチャ屋に「これダイヤモンド？」と確かめて買ったらしい。

どう見ても指輪の似合う指でない私に、娘は参観日になると必ず朝「あのダイヤモンドしてきてね」と言う。私は人に見つからぬように指輪をして行き、娘が私の方を向いた時、さりげなく手をかざしてダイヤを見せるのである。娘は満足してニコッと笑う。小学3年頃どこかで本物を知ったようだ。それ以来口にしなくなり、いつしか指輪もなくなった。娘は今もやさしい。

——そして月日が流れ、今はごころのやさしい孫たちがいます。



## 笑うひと

長野市 市川和典

私は気ままな七十二歳。少しばかりの畑を耕した後、二階の自室で雑文を書いていた。階下には孫を預かって遊ばせている妻がいる。

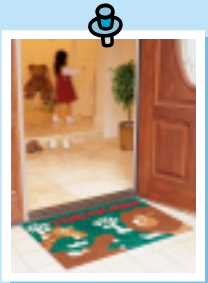
「どこかで聞き覚えのあるなつかしい声がある」そう思っただけを傾けると、七年前に亡くなった姑の声と妻の声がかき混ぜた音であった。

姑は結構きつい事も言ったが、明るいひとで、そのため言葉に角が無かった。私など親から注意されても直らなかつた欠点、姑から指摘されてそれなりに改まったこともある。

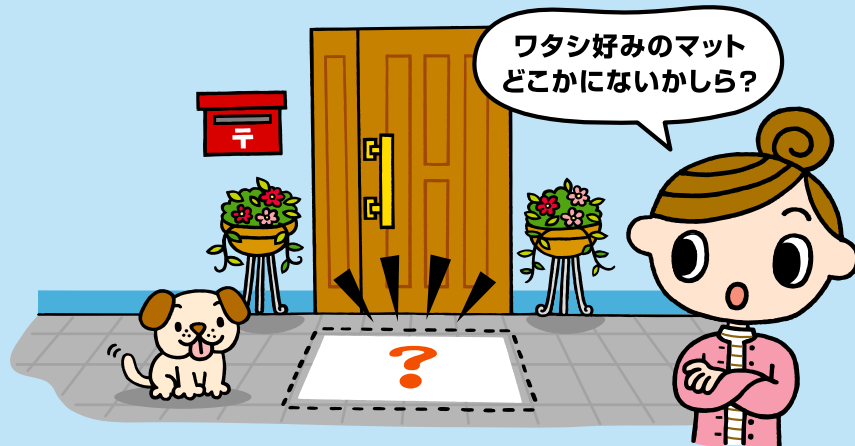
よく笑うひとで、仕事で疲れて帰宅した夕刻、姑の笑い声がもれて聞こえてくると、とたんに疲れが消えたものだった。このごろ、妻が母親そっくりになってきた。有り難いことである。

——笑った日のあむせ。

**ダスキン豆知識  
クイズ**



**Q.** (あるお客様のひとり言です)  
玄関をカンタンにセンスアップする  
方法ってないの？



玄関マットをオーダーメイド！

**A. ダスキンなら、選べるデザイン、300種類！**

おうちのキレイを保ちながら、そのうえ玄関をおしゃれに演出することができる、と人気なのが、ダスキンの家庭用玄関マット オーダーメイドタイプ。あなたは、300種類のデザインのなかからお好きな2種類をチョイスするだけ。お名前やメッセージを入れて、お届けします。ヨーロッパスタイル、和風のイメージ、アニマルイラストなど、多彩なデザインテイストを前に、どうぞ迷うことを楽しみながら選んでください。お気に入りか、きっと見つかります。



あなたの喜ぶ顔が見たい。

ど・れ・に・し・よ・う・か・な。  
ワ・タ・シ・の・セ・ン・ス・の・  
い・う・と・お・り。

**選びがいある300種類。**  
さまざまな玄関のイメージや、センスにフィットする多彩さ。

**2種類をピックアップ。**  
おなじものを2枚でも、違ったデザインを1枚ずつでも、OK。

**外からの汚れ、進入禁止。**  
マットの特殊パイル(毛あし)が砂、ドロ汚れ、ホコリをキャッチ。

**定期的にお取替え。**  
マットは4週間ごとにお取替えしますのでお手入れいらずです。



**ダスキン家庭用玄関マット** オーダーメイドタイプ

4週間標準レンタル料金 **1,155円(税込)**

■サイズ:約60×90cm ■素材:パイル/BCFナイロン ゴム/合成ゴム ■重量:約1,250g ■厚み:約10mm ■機能:吸着剤加工(SOA加工) 静電気防止機能(ポルター機能) 防災機能  
※写真と実際の商品の色は多少異なる場合があります。あらかじめご了承ください。※デザインごとに表現できる文字数に制限があります。詳しくはお客様係にご相談ください。

※この用紙は再生紙を使用しています。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33  
編集：「喜びのタネまき新聞」編集室  
〒108-0072 東京都港区白金2-6-8  
TEL:03-5488-1372 FAX:03-5798-7523

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】  
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター  
**0120-100100** www.100100.co.jp